● 読書感想文コンクール　中学生の部 ●

優秀賞

大井　里紗（おおい　りさ）　別所中 2 年生

作品名：「モモ」から学んだ豊かな時間

図書：モモ

「時間」とは何だろうか。何のためにあるのだろうか。そして、私たちは「時間」を有意義に使えているだろうか。

「モモ」は時間を持て余した休校期間中に改めて読んだ一冊だ。

この物語の主人公は、突如町に現れた不思議な女の子、モモだ。モモは不思議な力を持っていて、町の人たちはモモに話を聞いてもらうと幸せな気持ちになるのだ。モモもまた、町の人たちと助け合いながら幸せに暮らしていた。しかし、灰色の男たち、時間どろぼうによって町の人たちの時間が盗まれていってしまう。町の人たちは時間の節約を始め、次第におこりっぽい、おちつきのない人になっていく。

私は、時間を盗まれた人たちはまるで現代に生きる私たちのことのようだと感じた。私は委員会や部活、提出物などの期限が近づくとイライラしやすくなってしまう。そんなときは、他愛のない普段の会話でさえうっとうしく感じてしまう。時間に追われることで、心が窮屈になってしまっているのだろう。町で見かける大人たちはみんな時間に追われ、疲れきっているように感じる。時間の余裕と心の余裕は密接に関わり合っているのだと改めて思った。

また、時間どろぼうに時間を奪われ、友人たちとのおしゃべりや遊びをやめた町の人たちは決まって「時代が変わったんだ」と言う。果たして、人との関わりを捨てることは時代に適応することにつながるのだろうか。近年では急速に技術の発達が進み、インターネットを通じて速く、簡単に連絡が取り合えるようになった。私も最近、塾の授業をオンラインで受けた。校舎まで足を運ぶ必要がなく、移動時間の短縮にもなり便利な反面、自分の意見を先生に思うように伝えられず、もどかしさを感じた。コロナ禍で会社などでもこれからさらにリモート化が進んでいくことが予想されるが、時間をかけてでも同じ空間でコミュニケーションを取るほうがより充実感も大きいのではないだろうか。

さらに、「この女の子は友だちをたよりにしています。じぶんの時間を他人のため

につかうのがすきです。しかし、考えてみるに、もし時間をさいてやるあいてがひとりもいなくなってしまったとしたら、どうなるでしょうか？」というモモに対する時間どろぼうの言葉がある。この意味は、真実を知る存在がいても一人では意味がなく、誰かと共有される必要がある、ということだと思う。モモはそれをしっかりと理解して、自分の時間を友だちのために使える人だった。私は今までそんな考え方をしたことがなかった。自分の時間を自分のために使ってきた。そんな自分を恥ずかしく感じると共に、モモに尊敬の念を抱いた。

私はこの本を読んで「時間」に対する考え方が変わった。「時間」とは時に心の余裕を奪い、時に人生に幸福感を与えてくれるものだと思う。そんな「時間」に追われながらも、豊かな人生を送るためには、心の余裕を持つことが大切なのだと学んだ。また、モモの生き方から自分の時間を他人のために使うことの幸せを知った。これからの人生において、「時間」は徐々にスピードを上げて私のことを追い続けるだろう。だからこそ、私は心に余裕を持ち、他人のために喜んで自分の時間を使える人間になりたい。